

第 18 回 歯科保健医療国際協力協議会
総会および学術大会

抄録集

会期 2007 年 7 月 1 日(日)
会場 昭和大学歯科病院臨床講堂

大会運営委員

運営委員長(大会会長)

- 深井穂博 (ネパール歯科医療協力会, 埼玉県三郷市開業, JAICOH 会長)
- 黒田耕平 (日本モンゴル文化経済交流協会, 神戸生協なでしこ歯科, JAICOH 副会長)
- 夏目長門 (日本口唇口蓋裂協会, 愛知学院大学歯学部口腔外科第二講座, JAICOH 副会長)
- 鈴木基之 (昭和大学歯学部歯周学講座, JAICOH 副会長)
- 時田信久 (南太平洋医療隊, 埼玉県坂戸市開業, JAICOH 理事)
- 原田祥二 (北海道プータン協会, 北海道小樽市開業, JAICOH 理事)
- 河野伸二郎 (神奈川海外ボランティア歯科医療団 KADVO, 横浜市開業, JAICOH 理事)
- 澤田宗久 (南太平洋に歯科医療を育てる会, 大阪府大阪市開業, JAICOH 理事)
- 宮田 隆 (歯科医学教育国際支援機構, JAICOH 理事)
- 森下真行 (日本歯科ボランティア機構 JAVDO, 広島県開業, JAICOH 理事)
- 河村康二 (南太平洋医療隊, 埼玉県川口市開業, JAICOH 理事)
- 柴田享子 (DHネットワーク, JAICOH 理事)
- 田中健一 (中国北京天衛診療所, JAICOH 理事)
- 阿倍 智 (神奈川歯科大学, JAICOH 理事)
- 小原真和 (有夢会, 東京都品川区開業, JAICOH 理事)
- 有川量崇 (日本大学松戸歯学部衛生学講座, JAICOH 理事)
- 菊池陽一 (宮城県伊具郡開業, JAICOH 理事)
- 白田千代子 (東京都中野区北部保健福祉相談所, JAICOH 理事)
- 梁瀬智子 (ネパール歯科医療協力会, JAICOH 理事)
- 平田宗善 (神奈川歯科大学、南東アジア支援団 KDC-SAS, JAICOH 理事)
- 村田千年 (聖路加国際病院, JAICOH 理事)
- 越渡詠美子 (地球の保健室, JAICOH 理事)
- 中村修一 (九州歯科大学国際交流・協力室, JAICOH 理事)

会場：昭和大学歯科病院臨床講堂（6F）東京都大田区北千束2-1-1
最寄駅東急目黒線洗足駅下車徒歩2分（目黒洗足間約8分）
東急大井町線北千束駅下車徒歩5分

会費：千円（資料・懇親会費を含む）

日程：2007年7月1日

プログラム

9:30 受付開始（昭和大学歯科病院6F臨床講堂前）

9:55 開会（昭和大学歯科病院6F臨床講堂）

座長 鈴木基之

10:00 KDC-SAS タイ津波被災地救援歯科医療活動～第2回報告～

朝倉 夕紀子¹、浜田 作光¹、平田 宗善²、渡辺 宏春³、Martin Peters¹、
古橋 裕文²、町田 宏夫¹、川邊 裕美¹、土肥 雅彦¹、秋本 進¹、
山田 良広¹、梅本 俊夫¹

1)神奈川歯科大学 2)平田歯科医院 3)さくらばし歯科医院

10:20 神奈川歯科大学南東アジア支援団（KDC-SAS）タイ津波被災地救援
歯科医療活動 歯科技工部門（義歯製作）

飯田 佳代¹、石丸 晴彦¹、斉藤 隆¹、町田 宏夫¹、斉藤 元²、
平田 宗善³、古橋 裕文³、渡辺 宏春⁴、朝倉 夕紀子⁵、山下 礼華⁵、
濱田 作光⁵、秋本 進⁵、土肥 雅彦⁶、川邊 裕美⁷、Martin Peters⁸、
山田 良広⁹、阿部 智¹⁰、梅本 俊夫¹¹

1)神歯大附属技専 2)斉藤歯科医院 3)平田歯科医院
4)さくらばし歯科医院 5)神歯大成長発達歯科 6)神歯大顎顔面外科
7)神歯大障害者歯科 8)神歯大医用英語 9)神歯大法医学
10)神歯大社会歯科学 11)神歯大微生物学)

座長 河村康二

10:40 物資供与・労働供与からシステム構築へ

特定非営利活動法人地球の保健室の活動に見る途上国支援方法の変遷

松本 邦愛 東邦大学医学部社会医学講座、特定非営利活動法人地球の保健室副理
事長

11:10 途上国での歯科保健活動・能動因子と受動因子

中村 修一、深井 穂博、白田 千代子、梁瀬 智子、檜崎 正子、小原 眞和
ネパール歯科医療協力会

11:30 JAICOH 理事会・総会

座長 深井穂博

13:00 2006年度モンゴルとの国際歯科医療協力活動報告 学生交流を中心に
黒田耕平 金寿子

日本モンゴル文化経済交流協会 神戸医療生協 生協なでしこ歯科

13:20 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会第二回タイスタディーツアーに
ついての報告

千原 晃¹、川瀬 聖文¹、斉藤 孝平¹、高西 桂¹、門井 謙典²、阿部 智³

1)神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会 2)宝塚市立病院

3)神奈川歯科大学歯科医療社会学分野

13:40 ネパールスタディーツアー2007 報告 Report Of The Study Tour 2007 To
Nepal

白井 亮、堀込 裕美、井口 亜利、門井 謙典、木村 時子、阿部 智、
眞木 吉信

R. SHIRAI, Y. HORIGOME, A. INOKUCHI, K. KADOI, T. KIMURA, S. ABE,
Y. MAKI

東京歯科大学国際医療研究会 Student Society of Tokyo Dental College for
International Oral Health

14:00 日本・スリランカの歯科学生を対象としたアンケートによる、歯科学生とし
ての意識・関心についての比較考察

中澤 誠多朗¹、朝倉 那菜¹、于 森¹、春藤 滋¹、千丈 純香¹、滝波 修一²

1)北海道大学Interactive Dental Students Alliance for Health Care(IDAH、
冒険歯科部) 2)北海道大学大学院歯学研究科

14:20 学生の視点から見た国際協力

塩野 さやか、舟田 知花

日本大学松戸歯学部 国際保健部

休憩

14:50 JICA 草の根技術協力事業(草の根協力支援型) : トンガ王国における
歯科保健の為にプロジェクト

河村 康二 河村 サユリ

南太平洋医療隊

15 : 10 トンガ王国における歯科保健プログラムの広がり(トンガ人の意識変化、態度変容に対する一考察)

河村 康二 河村 サユリ

南太平洋医療隊

15 : 30 途上国における歯科診療を通じた国際協力

深井 穂博、中村 修一、小原 真和、麻生 弘、梁瀬 智子、檜崎 正子

ネパール歯科医療協力会

15 : 50 ボランティア活動ではお金をもらってはいけないのでしょうか？

田中健一

中国・北京天衛診療所

16 : 10 閉会

16 : 30 懇親会 (昭和大学歯科病院 2 号棟地下ホール)

KDC - SAS タイ津波被災地救援歯科医療活動 ～第2回報告～

朝倉夕紀子¹、浜田作光¹、平田宗善²、渡辺宏春³、Martin Peters¹、
古橋裕文²、町田宏夫¹、川邊裕美¹、土肥雅彦¹、秋本進¹、山田良広¹、
梅本俊夫¹

1)神奈川歯科大学

2)平田歯科医院

3)さくらばし歯科医院

われわれ神奈川歯科大学南東アジア支援団（以下 KDC - SAS）は昨年に引き続き、2004年12月26日に発生したタイスマトラ沖地震における津波被災地の歯科医療救援活動を行ったので報告する。2006年10月8日～12日の日程でタイ王国パンガー県タクアパ群プララーチャターン村タプラン学校において、タイ王室、王立マヒドン大学歯学部、プラティープ財団、サミティベート病院、王立ソークラー大学歯学部、タイ保健省、パンガー県地域保健所、在タイ日本大使館、タイ外務省、日タイ経済協力会、プーケット日本人会、タイ在住邦人ボランティアら約200名が協力してこの活動は行われた。

口腔内診査、歯周処置（スケーリング）、齲蝕処置（充填、予防填塞）、義歯作製および修理、抜歯、予防歯科教室の6つの班に分かれて活動は行われ、患者は口腔内診査を受けた後それぞれに必要なとされる処置の班に移動し処置した。現地の学童、成人を含めた多くの人々が訪れ、患者数は1356名で、予防指導を受けたのは300名であった。今回は第2回の活動ということで、地域の状況と今後の救援方法および診療方法を検討する目的で疫学調査を行った

治療内容ごとの患者数は、Sealant：249人（533歯）、Filling：720人（1543歯）、Scaling：428人、Extraction：347人（477歯）、Dentures:47 case であり、年齢構成は7歳が最も多く115名、次いで10歳が104名、小学生までが全体の51.6%を占めた。

発信者の連絡先

〒238 - 8580 神奈川県横須賀市稲岡町82

神奈川歯科大学 成長発達歯科学講座 小児歯科分野

電話・FAX：046 - 822 - 8852

E-mail : asayukd8@yahoo.co.jp

神奈川歯科大学南東アジア支援団（KDC-SAS）タイ津波被災地救援歯科医療活動 歯科技工部門（義歯製作）

飯田佳代¹、石丸晴彦¹、斉藤隆¹、町田宏夫¹、斉藤元²、平田宗善³、古橋裕文³、
渡邊宏春⁴、朝倉夕紀子⁵、山下礼華⁵、濱田 作光⁵、秋本 進⁵、土肥 雅彦⁶、
川邊 裕美⁷、Martin Peters⁸、山田 良広⁹、阿部 智¹⁰、梅本 俊夫¹¹

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| 1)神歯大附属技専 | 2)斉藤歯科医院 | 3)平田歯科医院 |
| 4)さくらばし歯科医院 | 5)神歯大成長発達歯科 | 6)神歯大顎顔面外科 |
| 7)神歯大障害者歯科 | 8)神歯大医用英語 | 9)神歯大法医学 |
| 10)神歯大社会歯科学 | 11)神歯大微生物学) | |

【緒言】

歯科技工部門（義歯製作）は、神奈川歯科大学同窓会前会長故藤田晃先生の附属歯科
技工専門学校に対する卒業生の派遣協力依頼のもと、2005年9月、第1回タイ津波
被災地救援歯科医療活動に参加した。今回、前年に続き2006年10月9日から12
日まで、タイ国パンガー県タクアパ郡ポララーチャターン タップラーン学校において、
タイ王室、王立マヒドン大学歯学部、プラティープ財団、サミティベート病院、王立ソ
ークラー大学歯学部、タイ保健省、パンガー県、地域保健所、在タイ日本大使館、タ
イ外務省、日タイ経済協力会、プーケット日本人会、タイ在住邦人ボランティアらが協
力して、第2回タイ津波被災地救援歯科医療活動が行なわれた。その中で義歯製作に
携わったので報告する。

【活動方法】

診療チームは王立マヒドン大学歯学部、王立ソークラー大学歯学部、サミティベ
ート病院の医師、歯科医師、看護師、歯科技工士、通訳、KDC-SASの約200名で構成
され、予防処置・指導、歯周治療、充填処置、外科処置（抜歯）、義歯作製の5部門か
ら成る。対象は学童または津波被災地区住民および近隣住民約1,500名とした。義歯
製作はマヒドン大学の歯科医師、歯科技工士、地域在住歯科技工士および本校卒業生が
担当した。第1回タイ津波被災地救援歯科医療活動においては、37床の部分床義歯を
製作したが、今回は主に全部床義歯の製作を行った。

【まとめ】

47名の患者に対して全部床義歯62床、部分床義歯17床を製作し、3床のリライ
ニングを行った。さらに多くの被災者が義歯を求めており活動の継続が期待される。ま
た今後の課題として、限られた時間と設備の中で多くの義歯を提供できるように、効率
的な製作方法を確立することが挙げられる。

発表者の連絡先

〒000-0000 神奈川県横須賀市稲岡町82 神奈川歯科大学附属歯科技工専門学校
TEL : 046-822-9351 FAX : 046-822-9351 E-mail :
acegikmo@kdcnet.ac.jp

物資供与・労働供与からシステム構築へ
特定非営利活動法人地球の保健室の活動に見る途上国支援方法の変遷

松本邦愛

東邦大学医学部社会医学講座、特定非営利活動法人地球の保健室副理事長

【目的】

特定非営利活動法人地球の保健室（以下「地球の保健室」）は、1998年から活動を開始し、2001年からはカンボジア国シェムリアップ州プオック郡にて、歯科保健及び学校保健活動を行ってきた。本報告では、地球の保健室の活動を時系列的に紹介し、活動内容がどのように変遷してきたかを概観することで、規模も資力もないNPOが効果的活動を行うにはどのようにすればよいか考察する。

【方法】

地球の保健室がカンボジアで行ってきた活動を、国際援助の方法論の中でマッピングし、援助形態の変遷を概観した上で、何故そのような活動内容の変遷があったかを考察し、活動の利点及び欠点を明らかにする。

【結果】

地球の保健室のこれまでの活動は、三つのフェーズに分けることができる。第一期は、2001年までの期間で、この時期の中心的活動は歯ブラシの供与及びブラッシング指導であった。2001年の初頭まではタイで活動を行い、2001年半ばよりカンボジアでの活動に移行した。対象は地域住民。年に数回現地での介入活動を行った。第二期は、2002年から2004年までの活動で、中心活動は小学校におけるブラッシング指導と開発した教材を用いた歯科教育及び歯科検診であった。対象はプオック郡の少数の小学校の児童であった。第三期は、2005年以降の活動であり、活動の中心は、小学校教員自身による小学校の衛生状況の包括的評価のための、現地の教育省、保健省役人、看護師も巻き込んだワークショップの開催・マネジメントである。対象は、小学校教員、役人、看護師等、学校保健活動のステークホルダーである。



【考察】

地球の保健室の活動は、地域住民、小学校児童、学校保健のステークホルダーと対象者を変え、活動範囲も歯科検診から予防、歯科以外の包括的學校保健活動まで広がってきた。これは、教育等の効果の浸透のしやすさと効果が及ぶ範囲を考慮した結果である。また、支援のあり方も物資の供与、援助者自身の労働の供与から、システム構築へと内容を変えてきた。現地の他セクターに対する悪影響を避け、活動の効果を持続させるに

は必然的な変化であったと考えられる。さらに、活動の主体も援助者から現地のステークホルダーへと移管しつつある。奇しくも、この援助形態の変遷は、日本の ODA の形態が歩んできた、物資供与からプロジェクト方式技術支援へ、さらには保健医療セクターシステム構築へという流れとマッチしている。地球の保健室の経験は、規模も資金力ない援助団体が活動を行う場合の一つのモデルケースとなることが期待される。



発表者 Email : rakchart@med.toho-u.ac.jp

途上国での歯科保健活動・能動因子と受動因子

中村修一、深井穂博、白田千代子、梁瀬智子、檜崎正子、小原眞和
ネパール歯科医療協力会

【はじめに】

途上国で国際保健医療協力にはWHOを健康戦略であるPHC(プライマリ・ヘルスケア)やHP(ヘルスプロモーション)の導入はプロジェクトを推進する。しかし、理論と実践の間には現場特有の困難が介在し、これらの障害を乗り越えるプロセスが国際保健医療協力であると言い得る。そこで演者はネパールでの18年間の保健医療活動で経験した能動因子と受動因子について考察した。

【方法と結果】

活動初期は歯科診療が中心で4年をかけ診療システムを開発した。1993年から学校歯科保健を導入し徐々に事業は変化発展フッ素洗口、母子保健(歯科保健)、巡回歯科保健、口腔保健専門家の養成、トイレプロジェクト、栄養指導、砂糖の摂取制限運動、歯の健康展、地域歯科保健開発などのプロジェクトが開発されていった。現在は地域歯科保健開発を展開しゴールに近づきつつある。

【考察】

18年間の活動からヘルスプロモーションを促進する能動因子と抑制因子を挙げる。
A.ヘルスプロモーションの能動因子：1.口腔保健専門家の養成プロジェクトはヘルスプロモーションを促進し自立型保健を促進する。2.学校歯科保健やフッ素洗口はヘルスプロモーションを亢進する。学校の先生はヘルスプロモーション活動のコアメンバーとなる。3.プロジェクトの遂行に当たってPLAN・DO・SEEは必要なステップである。4.WHOの健康理論の導入は保健活動を促進するが、導入の時機については注意が必要である。

B.ヘルスプロモーションの受動因子：1.生活習慣の改善プロジェクトは困難である。2.現地の人間関係がヘルスプロモーションを左右する。3.現地の政治情勢や社会構造はヘルスプロモーションの大きな壁となることがある。4.貧困や急な近代化はヘルスプロモーションを抑制する。

【まとめ】

途上国での歯科保健医療を進める上でプロジェクトを促進する因子として、口腔保健専門家の養成プロジェクト、学校歯科保健、フッ素洗口、母子歯科保健の展開を挙げることができる。一方抑制する受動因子としては成人の生活習慣の改善、環境因子としての貧困、政治情勢、複雑な社会構造などが解決困難な健康の阻害因子として挙げられる。結局途上国での歯科保健への道は、消極的であるが、信頼関係を結んだ身近な人間関係を有効に活用して静かにプロジェクトを進めることしかないように思われる。

「2006年度モンゴルとの国際歯科医療協力活動報告 学生交流を中心に」

黒田耕平 金寿子

日本モンゴル文化経済交流協会 神戸医療生協 生協なでしこ歯科

【はじめに】

モンゴルとの国際歯科医療協力が始まってから16年が経つ。この間にモンゴルの状況は激変しており、歯科事情もまた大きく変化してきている。1991年から歯科医師の私設開業が認められ年々開業医院数は増加してきたが、2年前より歯科大学の教官にも開業が認められてからわずか1年の間に首都ウランバートルでは120軒から200軒へと急増した。歯科医療は保険がほとんど利かず、自費診療であり収益が高いこと、公立病院の給料が低いこと、う蝕や歯周病が急増しており治療を望む患者が多いこと、医院の開設に民間資本が参入していること等によるものと考えられる。その結果、医科大学では医学部より歯学部の人気が高くなり、成績優秀学生が歯学部を選択する例が多くなってきている。我々は交流開始当初よりモンゴルの歯系学生へのセミナーや両国の学生交流を企画してきたが、歯科学生の志望動機も大きく変化してきている。国際歯科医療協力の目的も時代の変化に合わせて今後のあり方を考えていかなばならない。今回は昨年度の我々の活動報告と、特に両国歯学生への取り組みについて報告したい。

【06年度交流活動内容】

1. 「モンゴル健康づくり活動」(7/14~21)では、「健康チェック」(血圧測定、身長、体重、体脂肪率、尿検査、尿塩分検査)について、エネレル新入職員への講義と実習。郡部遊牧民の健康チェック活動と地元の「担い手」育成。障害者施設での口腔保健予防活動と訪問歯科治療。エネレル職員へのセミナーと歯科診療指導等。

2. 「第17回モンゴル歯科探検隊」の活動内容は、遊牧民への訪問歯科治療、保健予防活動、健康チェック、孤児院での歯科保健予防活動、障害者施設での訪問歯科治療、歯磨き指導、両国歯学生交流、エネレル診療室での歯科診療助言、エネレルスタッフへのセミナー等。

3. エネレル職員(イチンホルロー歯科医、ナランダワ技術者)の来日研修(2/23~3/16)の内容は、診療見学と模型実習、特にエネレルにおける日常診療での難症例相談(矯正症例も含め模型を持参して)、歯科診療台(チェアー)等の保守・管理研修等。

4. エネレル職員(ヘルレンボロル歯科医)の来日研修(2/23~4/29)の内容は、特に小児・障害者歯科を研修し、歯科治療時における小児との対応、治療技術、模型実習、う蝕予防(母親教室、リコール等)、公衆衛生活動等

5. 日本の歯学生に対しては、岡山大学歯学部3年生への「国際医療交流」の講義を受けた感想文と実際にモンゴルへ参加した学生(4人)の活動内容と感想文を。

発表者の連絡先: 〒651-2109 神戸市西区前開南町1丁目2-25 生協なでしこ歯科
TEL.078-978-6480 FAX.078-978-6056 Email:hpdqm355@yahoo.co.jp

神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会第二回 タイスタディーツアーについての報告

千原 晃¹、川瀬 聖文¹、斉藤 孝平¹、高西 桂¹、門井 謙典²、阿部 智³

1)神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会

2)宝塚市立病院

3)神奈川歯科大学歯科医療社会学分野

【目的】

この活動を行うにあたり、勉強会などを開催し、参加する学生一人一人の知識や向上を図って活動を行うことにより、『自分達に出来ること』の範囲を広げること。また、他大学の国際医療団体との交流を行うことにより積極的に情報交換を行い、広い視野を持つようになること。

【方法】

神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会の学生を中心として訪問国、活動場所、活動内容等を決定し、2007年2月17日～2月25日の期間に活動を行った。

【結果および考察】

主な活動場所としてはチェンマイとバンコクでした。チェンマイでの活動内容は、チェンマイ大学歯学部・附属病院の視察、カレン族の村での生活体験学習、学校にて歯科保健用品の供与。バンコクでの活動内容はチュラロンコン大学歯学部にてディスカッション、個人開業医の見学等でした。

今回の活動で参加した学生が一番印象に残っていることはチェンマイでのカレン族の村での生活体験学習でした。彼らの穏やかな生活を体験させてもらって日本の生活とのギャップに初めは正直惑いましたが、人と自然が共存し、人間が生きていく最低限のものを自分たちで作り出す、これが本来、人の生き方だったのかもしれないと学びました。お金で手に入る私たちの“豊かさ”とはいったいどれほどの価値をもっているのかを考えさせられた訪問となりました。また、今回はブラッシング指導という活動を通じてボランティアを行う難しさを痛感しました。行く前はボランティアするぞと意気込んでいましたが、実際に現地に行くと、自分達のしたかったことは相手の望む事の第一選択ではなかったのです。今私達の中ではボランティアは相手の環境や生活、考えを理解した上で必要とされて行うものだと思います。自分達のエゴでするものではないと納得させられました。今回のスタディーツアーで出発前から到着後まで数多くの大切なことを学びました。今回の経験で視野が広がり、歯学生として、また個人としてこれからの生活に活かしていきたいと思います。今後もこのようなスタディーツアーが続き、発展して、多くの後輩達が学校での勉強だけではなく、実際に外に飛び出して自分達の肌で体験し、学んで欲しいと思います。

発表者連絡先 千原 晃 〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田5-15-9

E-mail : akira@zaa.att.ne.jp

ネパールスタディツアー2007 報告
Report Of The Study Tour 2007 To Nepal

白井亮、堀込裕美、井口亜利、門井謙典、木村時子、阿部智、眞木吉信
R. SHIRAI, Y. Horigome, A. Inokuchi, K. Kadoi, T. Kimura, S. Abe,
Y. Maki

東京歯科大学国際医療研究会
Student Society of Tokyo Dental College for International Oral Health

【目的】

東京歯科大学国際医療研究会では毎年学生主催の海外スタディツアーを実施しており、今回が第7次である。今回の海外スタディツアーの目的は、発展途上国の地域医療と医療機関を視察することにより、保健医療の現状を実際に体感し将来を見すえた国際協力の方向を探ることを第一に、さらに学生主催によるスタディツアーを企画することにより、歯科医学生の海外保健医療活動の活性化を図ること、発展途上国の歴史・文化・社会制度を踏まえ、地域の歯科医療の現実を体験し医療機関を視察し交流を図ることにより、保健医療の問題や地域のニーズについて考えることである。

【対象および方法】

今回は2007年3月21日から2007年3月25日までネパールのカトマンズにおいて実施した。今回の参加者は歯科医師2名・学生3名である。

【結果および考察】

カンティプール歯科学校・歯科病院は日本のNGO団体の支援により、1997年に設立されたカトマンズで初めての歯科分野の教育機関であり、診療機関も併設している。学校には歯科衛生士・歯科技工士・歯科助手の3つのコースある。歯科衛生士のコースは3年間で国家資格が取得でき、歯科助手のコースは2年間である。歯科技工士のコースは1年間である。教員は各コース共通で常勤の歯科医師が5名、口腔外科・歯科矯正科などの非常勤の歯科医師が5名、その他常勤の医師などが5名、教養・基礎科目の常勤の教員が16名、全ての常勤・非常勤の教員の合計は57名である。歯科衛生士のコースは各学年40-50人程度、歯科助手のコースは各学年30-40人程度の学生が在学している。歯科技工士のコースは現在5名のみ学生が在学している。併設の病院は、日本でいえば診療所のような小規模な施設であった。現在の1日の患者数は20-60人程度であるが、患者数は減少傾向にある。

2007年8月の開校に向け建設中のカンティプール歯科大学・病院は、歯科医師の教育機関として4.5年制の歯学部を開設する予定である。

ピープルズ歯科大学・病院は1997年に設立された。教員は常勤の歯科医師37名、教養・基礎科目の常勤の教員が25名である。学生は各学年50名程度である。病院はおよそ10の診療科を持つが、明確に分かれていない科もある。

ネパールにおける地域保健活動への参加としては、カンティプール歯科学校・歯科病院の2年生とともにトカ村を訪問し、課外実習を見学した。

また、フリーデンタルキャンプを実施したボッダア寺院はカトマンズ市内にあるチベット密教の寺院である。カンティプール歯科学校・歯科病院からは歯科医師2名と歯科衛生士が参加した。チェックアップの後のサービス内容は、スケーリング・抜歯・ART・ブラッシング指導である。患者は107名で9割程度が寺院の僧侶、残りは寺院の近隣の住民である。

今回のネパールにおける貴重な体験を、日本における将来の歯科医療に生かすとともに、医療の分野でアジアを中心とした視点を持ち続けることができると考えている。

発表者の連絡先

白井 亮 東京歯科大学 4年 ryo_shirai@hotmail.com

日本・スリランカの歯科学生を対象としたアンケートによる、 歯科学生としての意識・関心についての比較考察

中澤 誠多朗¹、朝倉 那菜¹、于 森¹、春藤 滋¹、千丈 純香¹、滝波 修一²

1)北海道大学 Interactive Dental Students Alliance for Health Care(IDAH、
冒険歯科部) 2)北海道大学大学院歯学研究科

【目的】われわれ日本の歯科学生が、普段当然のこととして受け止めている歯科学生としての生活・環境や歯科教育への姿勢・意欲について、他国の例に照らして分析・評価・検証する。

【方法】IDAH;冒険歯科部で2006年7月のスリランカスタディーツアーにて、同国のペラデニヤ大学歯学部(以下P大)の学生を対象にアンケートを実施した。この際英語のアンケート用紙を準備し、ペラデニヤ大学で複製・配布・回収を行ってもらい、郵送されたアンケート用紙からデータを日本で集計する方法をとった。また同年12月に北海道大学歯学部において日本語でのアンケートを行い、その2つの結果と2003年に行った同様のアンケート結果とをあわせて比較・考察を行った。

【結果および考察】2006年のアンケートでは北海道大学歯学部の1~5年より計193名の、ペラデニヤ大学歯学部(以下P大)の3つの学年より計133名の学生から回答を得た。

・北大の学生の20.73%は親が歯科医師であるのに対し、P大の学生で親が歯科医師だと回答した者は一人もいなかった。

・「歯学部での勉強は楽しいですか? / Do you enjoy studying dentistry?」という質問に5段階(5:very much 1:not at all)で答えてもらったところ、P大の学生では5の回答が最も多く(49%)、北大の学生では3の回答が最も多かった(47%)。

・講義や実習への難易度の質問で、難しい(5段階評価で5あるいは4の回答)と感じている学生の率はP大で15%であったのに対し北大では32%と約2倍であった。また、カリキュラムへの満足度では、満足している(5段階評価で5あるいは4の回答)学生の率がP大で46%だったのに対し北大では20%にとどまり、さらに北大では不満(5段階評価で1か2)に感じている学生が28%と満足に感じている数を上回った。

・北大の72%とP大の84%の学生は毎日忙しいと回答しているが、一日の勉強時間を比較すると平均で北大の学生はP大の学生の1/3以下であった。とはいえ、2003年と比べると北大の学生の勉強時間には改善の兆しがある。(2003:37.2分、2006:52.05分)

・将来の志望(複数回答可)については、北大の学生では開業医(31%)より勤務医(41%)の回答が上回り、P大では開業医は5%と少なく、63%の学生が勤務医と答えた。また、将来海外で保健・福祉にかかわる仕事をしたいかどうかについては、北大の51%、P大の77%がyesと回答した。

【結論】 “We have a rare chance, so we make every effort to take it.” とあるスリランカの学生が言った一言にすべてが凝縮されているように、われわれ日本の学生が異常なまでに恵まれた環境にあることは間違いありません。自分の置かれた立場と海外の事情とをこのようなかたちで比較してみる、或いは海外に実際に行ってみる、ということを経験することは、何よりもまず自分を見つめ成長するために意義深いことだと信じます。

発表者の連絡先: 〒001-0015 札幌市北区北15条西2丁目5 テンテラス312号
電話:090-8928-0313 Email: composite_resin@hotmail.co.jp

学生の視点から見た国際協力

塩野 さやか、舟田 知花

日本大学松戸歯学部 国際保健部

私たち国際保健部は、希望学生をつのり、南太平洋医療隊のトンガプロジェクト参加、歯科医学教育国際支援機構（OISDE）主催スタディーツアー参加など、国際保健に携わっている先生方に協力していただきながら、学生の視点であらゆる面に疑問を持ち、行動し、実際に見て、聞いて限られた力の中で自分たちに何ができるのかを考え、学生同士のモチベーション向上を図ることを目的としています。

今年の3月にはカンボジアでOISDEの活動の様子を見学させていただきました。カンボジアの印象は、舗装された道路もあり、信号もみられ、きれいなホテルも多く立ち並んでおり、想像していた風景よりもずっときれいにみえました。しかし、外国人、特に日本人とわかるとタクシーなどで、必要以上の値段を要求されたり、本や民芸品を売ったり、靴磨きをさせてくれとせがむ人も多く、まだまだ貧困が広がっている現実を肌で感じました。アンコール小児病院では、歯の治療に来ていた子を中心に一人ひとりレットコートを使い磨き残しがたくさんあることを自分の目で確認してもらったうえで、鏡をみながらのブラッシング指導を行いました。カンボジアでは、主にクメール語と英語が使われているのですが、この小児病院に来る子たちはほとんどが学校に行っていない子で英語が話せる子がいなく、クメール語でも文字が読めない子が多いため、病院に勤めている日本語が話せる現地の方に助けてもらいながら、身振り手振りで行いました。それにもかかわらず、本当に素直な子が多く、一生懸命に歯ブラシを動かして私たちの言っていることを理解しようとしてくれていて本当にうれしかったです。

OISDEの皆さんの協力により、カンボジアの歯科大学も見学することができ、そこではOISDEの先生が現地の若い歯科医師に歯周病の手術をレクチャーしている様子も見ることができ、これから日本で勉強するわたしにとってとても貴重な経験になりました。また、CYRが支援をしている幼稚園にも行くことができ、そこではみんな目がきらきらしていて人なつっこく、楽しい時間を過ごすことができました。

今回カンボジアで様々なことを経験し、自分になにができるのかもわからず、自分の非力さを思い知りました。また、中途半端なボランティアではなく、継続した、現地の人たちが最終的には自らの力でやっていけるための手助けをしていかなければならないのだと思います。日本に帰ってきててもまだ自分になにができるのか、これからなにをしていけばいいのか答えはでていませんが、今回の経験を忘れずに色々な世界を見て、体験していきたいと思います。今回このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございます。

発表者の連絡先：塩野 さやか

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-12-16 電話 049-261-4756

**JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）
：トンガ王国における歯科保健の為にプロジェクト**

河村康二 河村サユリ
南太平洋医療隊

【目的】

1998年よりトンガ王国において南太平洋医療隊は歯科ボランティア活動を行っている。2006年5月より JICA 草の根技術協力事業(草の根協力支援型)を実施し、以後3年間は JICA との共同事業の形でボランティア活動を行い現在進行中である。現在まで私達の活動は徐々にあるが確実に進み、2007年4月には学校保健・フッ化物洗口を行う施設はトンガタブ、ハーパイ諸島合わせて幼稚園7施設、小学校は52施設約8500名の児童を対象に実施するようになった。現地ではワークショップ、歯の健康フェスティバル等を開催し広がりを得られている。トンガ予防歯科チームは一つづつではあるが、自立の道を歩みつつある。

JICA との共同事業の形を取るため、JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）提案書を主に PCM 手法を用い作成した。JICA との草の根協力支援型技術協力事業が採択されてから今日までのこの経過を報告し、草の根協力支援事業に応募する JAICOH の会員、他のボランティア団体がもっとスムーズに実施される運びになるような布石になればと考え今回発表を行うと考える。

【対象及び方法】

JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）提案書を作成に際し、主に FASID（国際開発高等教育機構）の PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）手法を用いている。プロジェクトの計画立案・実施・評価という一連のサイクルを、プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)とよばれるプロジェクト概要表を用いて、PDM に参加型のプロジェクト計画を目標、活動、成果、指標、投入等を考案作成し計画を立案する。その後事業を3年間各年度、四半期毎に実施し、四半期毎に事業の報告・評価をモニタリング・評価（Monitoring & Evaluation）手法に基づき、モニタリングシート表を作成し事業報告を行う。PCM手法では実施に合わせ活動、成果、指標等は発展的に変えても良い。

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標			
プロジェクト目標			
成果			
活動	投入		前提条件

【結果及び考察】

JICA は草の根協力支援型技術協力事業を新規提案時の PDM 作成が、平成 19 年度第一回草の根技協パートナー型募集から義務付けられており、PCM 手法とモニタリング・評価手法が不可欠である。この事業は国民のボランティア団体がボランティアを行う時、JICA との共同事業で行う形で参加できる。従ってこの手法を熟知することは必須である。1998 年から南太平洋医療隊の活動を基に PDM の作成には JICA の担当者と団体の構成員とで共同で作成した。また具体的な活動、それに対する成果を予測し、裏付けられる指標等は作成する。事業が実施しモニタリング・評価手法に基づき評価し見直しを行い、螺旋状のサイクルでより良いボランティア活動に発展させより高い上位目標達することが理想である。

【謝辞】

南太平洋医療隊の活動にご支援・ご協力をいただいた日本大学松戸歯学部社会口腔保健講座、日本大学松戸歯学部国際保健部、トンガ健康省国立 VAIOLA 病院、南太平洋医療隊員に感謝いたします。

発表者の連絡先 カワムラ歯科医院 住所：〒332 - 0016 埼玉県川口市幸町3 - 8 - 14 電話：048 - 256 - 0118

FAX：048 - 256 - 0130

e-mail：kawamura@pb3.so-net.ne.jp ホームページ：http://spmt.jp/

トンガ王国に於ける歯科保健プログラムの広がり
(トンガ人の意識変化、態度変容に対する一考察)

河村康二、 河村サユリ

南太平洋医療隊

南太平洋医療隊は 97年よりトンガ王国にて歯科治療や歯科保健活動等を行ってきた。初年より3年間は、健康省や歯科室の人々の信頼を得る難しさに翻弄されながらの活動であったが、数名の歯科スタッフに理解され、協賛を得るに至り歩みが速まった。当初 放置された多数歯う蝕を憂い、歯ブラシ・歯磨剤を与え歯を磨くことを教える事から始まった小学校・幼稚園での活動が、今ではフッ素洗口も加わり、更にはトンガ人歯科スタッフの協力の下、大きな広がりを見せている。対象校・対象児をより多く取り込み、トンガ王国全体で行われることを上位目標に掲げた活動ではあるが、更なる発展のため、急速な拡大に動く要素はどこにあるのか理解する必要がある。健康省歯科室内での実態調査、対象校で実際に見聞きした状況と質問紙によりトンガタブ本島30小学校、ハーパイ諸島7小学校の4年生を中心に教師・父兄を含め、活動に対する実態調査を行った。トンガ王国社会が民衆化に向かう現在、国民の健康感にも変化が起きていると考えられる。これら結果を報告すると共に更なる活動の発展のため、トンガ人のこのプログラムに対する意識変化と態度変容について考察した。

発表者の連絡先：〒332-0016 埼玉県川口市幸町3-8-14
TEL 048-256-0118 FAX 048-256-0130
E-mail: kawamura@pb3.so-net.ne.jp

途上国における歯科診療を通じた国際協力

深井穂博、中村修一、小原真和、麻生弘、梁瀬智子、榎崎正子
ネパール歯科医療協力会

【目的】

歯科疾患や歯の喪失に伴う口腔保健関連QOLの低下は、先進工業国においても開発途上国においても、基本的な健康課題のひとつである。その対策には、長期的には歯科医療技術の進歩を背景とした歯科医療制度の整備と歯科医療専門職の育成がある。ところが、途上国においては、歯科医師など専門職が不足し、たとえ歯科医師が養成されていても、医療制度が整っていないために、住民の歯科治療に対するアクセスが難しく、歯科疾患が放置され住民がその治療をあきらめている場合が多い。

演者らは、ネパールにおいて1989年から継続的に歯科保健医療協力を行っている。その内容は、学校保健、母子保健、口腔保健専門家養成、村人に対する歯科治療サービスの提供である。本報告では、2006年12月の第20次派遣での歯科診療結果に基づいて開発途上国における歯科診療協力のあり方について検討した。

【対象および方法】

対象地域はネパール王国首都近郊 Lalitopul 郡の Thecho 村，Dhapakhel 村，Sunakochi 村，Chapagaon 村の4村とその周辺地域である。対象者は，4歳～85歳の歯科治療受診者399名であり、口腔内状況、主訴、治療内容、質問紙調査から分析した。

【結果および考察】

(1)年齢階級別口腔内状況：DMFTは、0-9歳：1.4、10-19歳：1.4、20-29歳：3.5、30-39歳：4.0、40-49歳：3.6、50-59歳：5.4、60-69歳：10.3、70歳以上：16.7であり、全年齢層の一人平均D歯数は、2.2歯であった。(2)主訴：歯痛29.9%、充填処置27.9%、抜歯21.1%、歯石除去13.6%であった。(3)処置内容：抜歯31.9%、歯石除去19.6%、投薬14.8%、歯みがき指導13.8%、アマルガム充填13.6%という結果であった。(4)口腔保健関連QOL：過去1年間に歯痛の経験のある者70.7%であり、噛み具合に不満のある者は全年齢階級で平均32.9%であったが、60歳以上ではその割合は約70%を示した。

【結論】

本結果から、開発途上国における歯科診療協力は、地域レベルではその必要性が高いが、長期的にみると、学校歯科保健や地域保健活動を経験した村人が増えることで、治療に対するニーズや治療内容が変化すると考えられ、地域でのヘルスプロモーションと連携した歯科治療協力の可能性が示された。

発表者の連絡先：〒341-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 深井歯科医院・深井保健科学研究所 深井穂博 Email: fukaik@ka2.so-net.ne.jp

ボランティア活動ではお金をもらってはいけないのでしょうか？

田中健一 中国・北京天衛診療所

【緒言】

海外に在住する邦人が直面する医療問題にはいくつか解決が難しい内容があるが、その中でも最も対応が難しい分野は自閉症、ADHD など小児の発達障害に関するものである。診断や治療、リハビリを受けるにあたり両親の母国語である日本語が好ましいが、当該国との言語や法律の相違があるため、何もできない状態になっている児童が存在する。

(財)海外邦人医療基金は企業から出資金を集め、それを原資として海外に在住する会員企業の駐在員に医療サービスを行っている政府管轄の特殊邦人である。この基金が実施する事業の1つに小児科と歯科が共同で発達障害児を有する家族を支援する事業がある。小児科医1名、歯科2名、事務スタッフ1名が日本より派遣され、現地の邦人から健康に関する相談を受け付ける保健所の機能を行っている。私はこの財団がマレーシアで実施している歯科のミッションに2001年以来参加し、発達障害を有する児童の口腔ケアの他、一般の邦人からの相談を受けてきた。

【事業の概要&参加者】

- ・一般相談(小児科、歯科)小児科相談(33名)、歯科相談(187名) 2007.6.22-25
- ・日本人学校、幼稚園の児童へのブラッシング教室
- ・クアラルンプール日本人学校の養護学級の児童に対するブラッシング(歯科)
- ・養護教諭からの質疑応答(小児科)

【考察】

日本人学校の養護学級には4名の発達障害の児童が通学している。相談者からのアンケート結果、養護教諭との懇談、および毎年数名の幼稚園児が本相談により発達障害と診断される対応が開始されるため、この事業そのものは有益なものであることと考えている。

しかし、海外でどんな事業を行うにしても資金を考慮せずにすすめることはできない。基本的に医師団はボランティアであるものの、航空運賃などの経費が必要とされるからである。このミッションにかかる経費は今まで全額日本側の財団の資金により賄われてきた。そのため、クアラルンプール日本人学校、幼稚園はこのサービスが日本側が出すものと考え、コスト意識は低く、受けたサービスに対して応分の負担をするという意識が芽生えなかった。私はここ3年にわたり日本側と対等な立場で事業を実施する見地から、現地の日本人会、日本人学校に資金提供を求めてきた。今年になり日本人学校から「無料だからしたのであってお金を払うならきていただかなくて結構だ」という連絡がきた。児童への健康教育および障害を有する児童に対して理解のない校長・教頭に対し、どう接していけばよいか主催者側と議論を重ねている。本事例は海外にて国際活動

を行う場合に、現地が支払う費用という点において非常に示唆に富んだ内容を提供してくれる。途上国という言葉があるが、日本人も費用負担という面においては、十分途上国に値するメンタリティーを有していると考え

発表者の連絡先

田中健一：tanaka1963@excite.co.jp

J A I C O H 資料集

- 1 . 歯科保健医療国際協力協議会とは
- 2 . 歯科保健医療国際協力協議会会則
- 3 . 入会申込書
- 4 . ニュースレター

歯科保健医療国際協力協議会 (JIACOH)
Japan Association of International Cooperation for Oral
Health)

「歯科の国際保健医療協力を語る会」が前身であり、1990年9月に設立された。歯科保健医療を中心とした国際協力の立案、実施を行うとともにその背景にある栄養・食生活の改善について調査協力を行うことを目的に、カンボジア、ソロモン諸島、ミャンマーなどでの協力活動を行ってきた。

2000年度以降は、(1)口腔保健に関する国際協力分野で活動する団体や個人の情報交換・連携のための協議会開催とニュースレターの発行、(2)人材育成のための小規模国際協力活動の助成(シーズ・プロジェクト)を主な事業内容としている。具体的な情報交換の場としては年1~2回の国際保健に関するフォーラム、ワークショップの開催がある。また、国際歯科保健医療NGOダイレクトリを2002年から発行している。

本会の運営は、理事会が中心となっていて行われている。理事は、ネパール歯科医療協力会、日本モンゴル文化経済交流協会、南太平洋医療隊、日本口唇口蓋裂協会、北海道ブータン協会、DHネットワークなど海外活動団体の役員と、カンボジア、中国、ミャンマーなどで個人として保健医療協力活動を行っている者で構成されている。また、本会会員が、フィリピン、スリランカ、ベトナム、バヌアツ共和国などで独自に歯科保健医療協力活動を展開している事例がある。また、年間事業計画・予算などの決定は、年1回7月頃開催される総会の議決を経て行われている。

国際保健医療プロジェクトへの応募としては、本会に関連する団体や個人の海外活動を、本会ニュースレターのなかで随時紹介している。本会の活動としての小規模国際協力活動の助成(シーズ・プロジェクト)は、会員を対象とし、募集はニュースレターを通して行い、採用の可否は理事会で決定される。

代表者：深井穫博(会長)

事務局：〒341-003 埼玉県三郷市彦成3-86

TEL：048-957-2268、FAX：048-957-3315、E-mail: fukaik@ka2.so-net.ne.jp

歯科保健医療国際協力協議会(JAICOH)

入会申込書

氏名(漢字)	
氏名(かな)	
所属	
住所(職場等)	〒
TEL	
FAX	
住所(自宅)	〒
TEL	
FAX	
e-mail	

JAICOH 入会金	1,000 円
普通会员	5,000 円
維持会員	10,000 円
寄付金	シーズプロジェクト() 円
	その他活動 () 円
合計	

私は(普通会员・維持会員)として申し込みます

年 月 日

氏名 _____

返送先 〒341-0003 三郷市彦成 3-86 深井歯科医院 宛郵送

あるいは FAX(048-957-3315) で送信して下さい

郵便為替:口座番号 00140-4-36465 加入者名:歯科保健医療国際協力協議会

第 17 回 歯科保健医療国際協力協議会 (J A I C O H)
学術大会プログラム・抄録集

2007 年 7 月 1 日発行

発行人： 深井穂博

大会会長：鈴木基之

発 行： 歯科保健医療国際協力協議会 (JAICOH)

〒341-0003 埼玉県三郷市彦成 3 - 8 6

TEL 048-957-2268 FAX 048-957-3315
